



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

令和元年度 No.3 第 132 号 令和 2 年 1 月 26 日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋 藤 洋 平
印刷 (株) チ ュ ー エ ッ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：663人

地域に向けた支援を継続して行っています

一般社団法人 富山県作業療法士会 理事 松本 和美

(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)



県士会の理事を拝命し数年が経ちました。理事を経験し感じることは、理事会での各種事業の報告や検討課題の多さです。それだけOTは、活動や参加の場が広がってきており、世の中に認知され必要とされている職種になっていることを実感しています。

私が担当、所属している発達障害部会では、他職種や地域との連携を目的に、年1回研修会を開催していますが、毎年多くの学校の先生や療育、相談等に携わる様々な職種の方が参加されますし、事業として学校生活支援事業という形で年間10件ほど、直接学校を訪問し学校から個々の相談を基

に学習や生活に困難が見られる児童について、原因をアセスメントし具体的な支援法を提供する活動も行っています。富山県の発達OTの認知度は比較的高いと感じていますが、個々のOTが職場や事業で地道に実践してきたことが評価されているのではないかと思います。

最近の発達領域は乳児期から成人期までのライフステージに沿って他施設や他職種と連携をとりながら切れ目なく支えていくことや地域生活での支援が求められています。職場の仕事もしながら地域に向けて活動することは、マンパワー不足や職場の仕事との兼ね合いもあり調整が難しいところもありますが、部員で協力しながらOTとして支援できることを発信し実行していきたいと思えます。

“作業療法”を未来につなぐために

一般社団法人 富山県作業療法士会 理事 吉波 美穂子

(富山医療福祉専門学校)



Olympic yearの幕開けです。今年もよろしく願いいたします。

会は現在、登録施設数は165で会員数は663名で、平成19年から毎年40名前後の入会があり増え続けています。活動としては行政や関連団体からの依頼などをきっかけとして、幅が広がるとともに会員のつながりが深まり内容の濃いものになり、会員の熱い思いと底力を感じ、感謝しております。また、今年度は2月に第19回富山県作業療法学会、11月には第20回東海北陸作業療法学会を開催しますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、『作業療法士がいかに包括的な視点でアプローチができる職種であるか』を多職種との関わ

りのなかで感じます。この特性は“作業療法士育成のための教育”をもとに身につけたもので確かなもので、さらに、幅広い視野で学び研鑽を積むことにより、真の意味で「AIに代替えされにくい仕事」の作業療法の未来につながると考えています。

参加いたしました協会の会議では、約62,000名の会員を抱える団体の将来を見据えたもので圧倒されましたが、興味深く、活動を少し身近に感じられていい経験となりました。

会の活動は時間や労力がかかりますが、長くやって思うのは善因善果、自己の成長につながるということです。ぜひ一緒にやりましょう。また、子育て中の仲間から「もう少し手が空いたら積極的に参加したい。」と聞き、嬉しく思いました。微力ですが会を支えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第53回日本作業療法学会に参加して

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課 丸池 駿介

2019年9月6日～8日に第53回日本作業療法学会に参加させて頂きました。本学会のテーマが「作業療法研究のターニングポイント」でした。学会長の東 登志夫先生の講演では、現状の作業療法の問題点として①研究活動は有資格者の増加率と比較すると低い現状であること、②作業療法の効果を証明するエビデンスレベルの高い研究はまだ少ないことの2点が挙げられていました。そこで作業療法士の研究活動の活性化が不可欠であり、日本国内の作業療法士の研究活動の現状整理と目指すべき研究活動の促進が目的とのことでした。

本学会のシンポジウムでは3人の講師がそれぞれ臨床での疑問から研究へとつなげる過程を説明されていました。また大阪府立大学の竹林 崇先生の教育講演では事例報告からランダム化比較試験に至る臨床研究について説明をされていました。またその他にも研究におけるエビデンスの意味や注意すべき項目（バイアス、交絡など）、今後作業療法のエビデンス構築へ向けた展望についても

お話がありました。各講演を通して、日々の臨床疑問を意識して考察を深めることで明確な研究目的や内容に繋げていくことや、臨床で実施する作業療法のエビデンスを調べる際に注目すべき点などを意識していこうと感じました。

各発表でも様々な研究や画期的な介入を用いた事例報告など、現在日本で行われている作業療法の最前線について触れることが出来たと感じました。

また今学会では口述発表をさせて頂きました。当院の四肢機能研究班で研究している経頭蓋直流電気刺激の脳卒中への効果について事例報告をさせて頂きました。発表を行う過程で研究内容や先行研究を調べる事、介入結果の考察など多くの事を学べる機会になったと感じております。

最後になりますが、今学会に参加して今後の作業療法にとっての研究の重要さとエビデンスの必要性を学ぶことが出来ました。そして日々の臨床業務への意欲に繋がりました。

第19回東海北陸作業療法学会に参加して

富山西リハビリテーション病院 湯浅 千佐都

11月16日、17日に静岡県浜松市にて開催されました、第19回東海北陸作業療法学会にポスター発表及び演題聴講のため参加しました。会場内は沢山の参加者で活気づいている中、今回の発表が自身初の学会発表であったため、内心とても緊張しながら学会へと臨みました。

ポスター発表では、左片麻痺を呈した女性が、帯締め練習や着付け練習などの実践練習を経て最終的に美容師として復職した経過について発表しました。緊張こそしましたが他施設の先生方からご意見やアドバイスなどを頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、抄録やポスター作成などに際し、お忙しい中にも関わらず指導して下さった先輩方にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。

学会全体の演題に関しては、身体障害、精神障害、高次脳機能障害、難病など様々な分野の発表が行われていましたが、その中でも自動車運転や就労支援など退院後の社会復帰に関する発表が多

かったように感じました。近年、自動車運転支援に対して作業療法士の関わりがより一層必要とされている中、当院でも他職種と連携しながら認知機能・高次脳機能に関する評価や自動車運転シミュレーター(DS-7000R：三菱)を使用した運転評価、走行練習を行ない、自動車運転に対し支援をしています。しかし、対象者によってそれぞれ社会的背景が異なり、アプローチに難渋することは少なくありません。今回の学会で得た他施設での取り組みを参考にしながら、今後の支援に活かしていきたいと思えます。

また、学会運営スタッフの方々は皆親切で、私のような県外からの参加者でも安心感を覚えるような対応でした。来年はここ富山県にて第20回東海北陸作業療法学会が開催されます。今回の学会参加で感じた事を忘れず、参加される皆様が気持ちよく安心して過ごせる、また活気溢れる学会となるよう、準備・運営に尽力していきたいと感じました。

東海北陸リーダー養成研修会in石川に参加して

池田リハビリテーション病院 飯田 朱美

ミッション!!「県士会における中堅スタッフ（後継リーダー）育成の課題をあげよ」という事前課題を前に、我ら5名の精鋭たちは、顔を見合わせて頭を悩ますことから始まりました。副会長の桐山、広報部の塚田、総務部の松本、アクティビティー部の熊南、そして福祉用具支援事業委員会の飯田。内容がまとまらず直前までLINEで検討、資料直しを繰り返しました。ここで5人の結束が固まり、研修への緊張とワクワクした高揚を感じたのは私だけではなかったはずです。

東海北陸リーダー研修会in石川は、11月30日(土)～12月1日(日)金沢市で開催され、東海北陸7県士会から計35名参加で行われました。

1日目は、グループワークで臨床実習指導について。短時間で効率よく実習を行うために。どのような社会人を目指すのか？現場の生き生きとした姿を見せているか？学生のみならず後輩育成のヒントを頂きました。特別講演は石川県士会顧問の今寺忠造氏による「リーダー育成について」。挨拶、先手は人を変える。報・連・相は能力以上の仕事、上司を使うツール。自分を変えて周りを巻き込むリーダーとしての心構えを再認識しました。今寺先生のOT LOVEを余韻にその後の懇親会では、各々がOT論について熱く語り合う夜となりました。



2日目は、事前課題を発表し、他県士会からのアドバイスを参考にロジックツリーを用いて対策を立てるという流れでした。ワークライフバランスの実現困難、子育て世代参加困難、マネジメントを学ぶ機会がない、士会の役割や意義の未周知など課題は各県共通にみられました。富山県士会では、親子参加できるサテライトスペースの設置、テレビ会議、LINE@やHPなどSNSの有効活用、地区別での運営などが提案されました。OT士会リーダー育成を！を合言葉に、このLINEグループの継続を約束した5人。これからが挑戦と思っています。貴重な機会を有難うございました。

地域アドバイザー委員会からの願いとお知らせ

地域アドバイザー委員会では皆様の地域リハビリテーション活動支援事業講師派遣実績を収集しています！

地域ケア会議や介護予防事業、介護者家族支援事業、地域サロン活動など地域に向けて地域生活に関する活動にOTとして関わられた際には、県士会HPの地域アドバイザー委員会のページから実績報告の入力をお願いします。

所属先の業務として実施する出前講座や個人的に依頼を受けて関わっているものも是非ご報告ください。対象者や対象事業は高齢者や介護に関するものに限りません。小児や学童、障害、精神の分野でもOTとして助言者や講師などの立場で関わられた地域活動があれば是非教えてください。

収集結果は富山県士会員の地域包括ケアシステムへの関与状況の一指標としてOT協会へ毎年報告されます。

また、皆様からお寄せいただいた報告は、実績一覧としてHP上で閲覧することができます。ID・パスワードはいずれも【tiiki】（＝地域）です。是非ご覧ください。

身体障害部会研修会に参加して

済生会高岡病院 引綱 力

9月22日(日)に身体障害部会の研修会に参加させていただきました。仙台青葉学院短期大学の齋藤佑樹先生による「対象者の大切な作業を実現する作業療法実践と目標設定～作業療法士に必要な知識と技術～」をテーマとした研修会でした。

今回の研修では目標設定を行う上で大切な事は何かについて、齋藤先生より講義をしていただきました。実際の齋藤先生の臨床場面での技術を映像で見ることができ、普段の自分と照らし合わせて、自分の実践してきた作業療法について客観的に見つめ直すことができました。まず作業に焦点を当てた実践と目標設定を行う上で重要なことは作業療法の対象者は障害者ではなく、なんらかの原因によって大切な作業の遂行に問題を抱えた人であり、その方にとって大切な作業を共有しリハビリを行なっていくことが大切だということです。その上で作業とは何かと考えたときに作業の一定義として「人々がする必要があり、したいと思い、することを期待されていることを含む」とあり、その作業の意味はその人主体でしか分からないということをつかんだ上で目標設定を行っていかねばいけないと感じました。

介入して行く上でクライアントは作業療法士が何の専門家なのかを知らないことが多く、このことによりクライアントから作業療法サービスに対する主体的な参加の動機や機会を奪う可能性があります。また、作業療法士自身は協働していると思ってもクライアントは自分の目標すら知らないことや、リハビリを進めていく上でリハビリ自体が目的になっている場合に問題が表面化しな

いということがあります。これらに陥らないように面接評価の際に重要なこととして①クライアントが作業療法士の専門性を知る、②依頼者と専門家という協働関係を構築する、③協働関係のともにクライアントがニーズを表明する、④クライアントと作業療法士が文脈を含めたニーズを共有する、⑤クライアントと作業療法士と一緒に目標・計画を立てる、以上5点が上げられました。実際に自分自身も面接評価の際に大切な作業を聞き取ることに満足し、聞いた作業をそのまま目標として介入してしまうことがありました。これではニーズを共有し一緒に目標設定を行えたとは言えず、リハビリ自体が目的になっていたかもしれません。今後は「面接評価」＝「患者さんと、自分が協働を開始するための重要なプロセス」であることを重視して面接評価を行っていきたいと思いました。

自分は今、回復期病棟で働いており患者さんの退院に向けてMSWや看護師など多職種がチームとなって行わなければいけません。その中で家族とクライアントから求められていることなどを聴取した中で経済的・家庭的等様々な理由で考えに相違が生じる事もあります。そのような中で介助量の軽減や機能回復は意義のある支援ですが、クライアントが大切な作業と結びつき、自身が健康であると思える生活を営めることが大切であり、機能回復や動作効率の改善はその目的を達成するための手段であると位置づけてクライアントの生活に寄り添った作業療法士になりたいと改めて思いました。

アクティビティ部会研修会のお知らせ

テーマ：笑い×介護 芸人活動と介護現場から学んだコミュニケーションVol.2

講師：石田 竜生氏（介護エンターテイナー・OT・ケアマネジャー・芸人）

日時：令和2年2月15日(土) 10時～12時（受付開始9：30～）

場所：富山西リハビリテーション病院 会議室

参加費：会員 2000円 非会員 3000円 学生 500円

他職種スタッフのご参加もお待ちしております。集団活動のマンネリ化にお悩みの方必見！

申し込み：QRコードもしくはURLより申込フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/LYXkCW4rEp82jzmS7>

申込締切：令和2年2月8日（土）当日参加も可

問い合わせ先：堀川南光風苑きときと 熊南 清夏

TEL：076-494-3151 Mail：ot_toyama_activity@yahoo.co.jp



障害老人部会研修会

『認知症の人に対する作業療法～急性期から地域までの作業療法士の役割を考える～』を終えて

金沢医科大学氷見市民病院 菅澤 大介

令和元年10月6日、高岡市ふれあい福祉センターにて、『認知症の人に対する作業療法…』と題しまして研修会を開催しました。講師には、森ノ宮医療大学教授で作業療法士の松下太先生をお迎えしました。

講義では、まず、認知症という病気ではなく、認知症を患っている「人」に目を向けることの大切さを説かれていました。「パーソン・セントラード・ケア」という基本的考え方は、認知症の方たちに限らず、リハビリを行っていく上ではだれでもがもつべき心構えと思われました。また、各病期における作業療法のあり方、目を向けるべき留意点のほか、軽度認知症に関係するもろもろのお話など最新の知見についても多くを学ぶ機会を得ました。さらに、各地域に存在する図書館を地域包括ケアの一翼を担う施設にしようとする取り組みなど、地域に働く作業療法士としては考えさせられることも多々ありました。

今回の研修会は事前の応募が多く、近年では最多の参加者となりました。アンケート結果もほぼすべてが肯定的なものでした。また、アンケートの内容からも参加者のみなさんにとって得るものの多い研修会であったろうことが想像できました。

「その人を知ることの大切さ、ニーズを捉え、どう応えるか、しっかり考えて、今後、人と向き合っていこうと思いました」「とても分かりやすく楽しく学ぶことができました。パーソン・セントラード・ケアに基づいた視点を持って関わりたいと思います」「まだまだ学ばなければならないと



いうこと、道は間違っていないと背中を押された気持ちと、色々気づき、感じ、考え、良い時間、良い研修でした」「認知症の話しからやわらかい話まで引き込まれました」「自分の考えに自信が持てました」などなど。

松下先生には、認知症という以外はとくに条件をもうけず依頼しました。実際の研修会では、作業療法士のあるべき心構えから、知っておくべき知識、各病期、地域でOTができることなど実にさまざまなことを学びました。研修会前日の懇親会でもそうでしたが、先生は話題が豊富で、たいへん分かりやすく話してくださいました。多くの方が、認知症について、また、作業療法について理解を深めることができたと思われまます。参加したみなさんがこれから各現場で作業療法を行っていく上で実りの多い研修会になったのではないかと感じています。

■ 会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	橋場 彩乃	国立病院機構富山病院	砺波総合病院	
異動	向 麻衣	高岡駅南クリニック	自宅	
異動	鹿熊友加子	老人保健施設 ちょうろく	自宅	
異動	出村 晶子	富山協立病院	自宅	
異動	松村 彩華	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター こども療法課	
異動	松田 公輔	厚生連 高岡病院	厚生連 滑川病院	
異動・改姓	山中 真希	(株)ライフ・クリエイト	自宅	旧姓 砂田
改姓	丹羽 祐子			旧姓 大西
退会	野上恵理子	富山市障害者福祉センター		
退会	田中 有里	富山西リハビリテーション病院		

～初めての試み、まちなかゆる歩きとやま2019へ参加して～

普及指導部部長 谷越 祥子（シルバーケア城南）

例年、作業療法の普及活動として、いきいきとやま・健康と長寿の祭典にて高齢者を対象とし、作品展示・作品販売を行ってきましたが、昨年ねりんピックへ参加し、より幅広い層を対象とした普及活動を行う機会を得たことで今年度も様々な世代へ普及活動を行いたいと考えました。会長

様のご家族とともに見に来られます。「これ、私が書いたの」「すごいね」とご本人、ご家族様が笑顔になりました。記念撮影をし、とても喜んでおられました。イベントの中では、体力測定もっており、併せて作業療法相談に来られる方もおられました。いろいろと資料を用意していました



をはじめ、理事の方の協力もあり、富山大学歩行圏コミュニティ研究会主催イベント“まちなかゆる歩きとやま2019”へ参加協力し、作品販売を行うことが出来ました。初めての試みであり、準備期間も少ない中、不安もありましたが、4施設、11名の方の協力がありました。小さなお子様、高齢者の方が年齢を問わず、並べられた作品を見て手に取り「きれいだね」と言い、片麻痺の方等病気を持った方が作られたと聞き驚かされていました。「こんなに上手に作れるんですね」「これは何に使えるんですか」「こんな便利なものがあるんですね」と購入して下さり、笑顔になっていく。少しずつ作品を通じ興味を持って頂けたのが分かりました。沢山用意した作品も1日を通し75名の方が作品を購入して下さり、最後にはほとんど無くなりました。作品販売だけでなく、一部作品展示を行いました。作品展示を行うと作成した利用者

が、作業療法としての的確な説明が出来ず、より専門性を高めていく必要があると感じました。他、ステージにて各参加グループの発表がありました。ここで会長、理事の方4名が一言、“人は作業をすることで元気になれるぞ”と高らかに言われました。本当にその通りだと思います。イベントの中でもたくさんの方を笑顔にすることが出来ました。笑顔は元気になれる一歩です。作業をする人、作品をもらう人全員を元気にすることが出来たと思います。私たちの仕事は人の役に立てる仕事であると実感する良い機会となりました。このような素晴らしいイベントへ参加する機会を与えて頂き感謝します。今後、このイベントを継続し、よりよい普及活動を行えるよう努力していきたいと思ひます。最後にご協力頂きました会長、理事の方々、作品販売の協力をして下さった方々に感謝致します。ありがとうございました。



2019年度 第2回47都道府県委員会より

一般社団法人 富山県作業療法士会 会長 齋藤 洋平 (南砺市民病院)

日本作業療法士協会(OT協会)と都道府県士会との情報共有の場として、47都道府県委員会(以下、47委員会)があります。

今年度第2回が、7月27日(土)～7月28日(日)にTKP築地新富町カンファレンスセンターにて開催され、OT協会の重点課題項目やワーキンググループなどからの経過や課題について報告がありました。

この中で、「地域包括ケア推進委員会」からは、地域ケア個別会議を中心として、他の事業との連動性と作業療法士の活動について提言がありました。すでに、多くの自治体では、リハビリ専門職として作業療法士が関わることが増えていますが、そのなかで、作業療法士は活動と参加の阻害因子と対策を適切に助言すること、社会参加に繋げることが役割であることの確認がされました。また、個々の事例の他、地域課題に対して、いかに関わっていくのかも今後の課題として出されていました。

「精神科ワーキンググループ」からは、ひきこもりへの関わりやMTDLPの視点を取り入れたツール等の紹介があり、精神科作業療法も、社会参加がより求められること、そのためには多職種連携を図る必要があることを情報提供いただきました。

また、モデル事業の報告もあり、北海道士会からは、学生会員や非会員への働きかけ、休職後の士会活動への復帰への取り組みが紹介されました。埼玉県士会からは、高校生や養成校の学生に対する支援と士会との活動が紹介されました。

石川県士会からは、小学生から高校生への作業療法の啓発活動について紹介がありました。奈良県士会からは、作業療法士の仕事を題材として絵本について紹介がありました。いずれの士会においても、新たな取り組みを行うことは労力が必要であるが、目標としていた以上に成果や効果が生まれとの説明がありました。

今回から、「ダイヤモンドを探せ」という、いくつかの都道府県士会の特徴的な取り組みを紹介する機会が与えられました。富山県士会から、マラソン大会のボランティアや、ねりんピック、健康と長寿の祭典への参加、高校生体験会による啓発活動を紹介すると共に、その成果についても説明しました。前述したような事業を新たに行うことも大切ですが、安定した事業として継続していくことも大切であることが、富山県士会の取り組みとして述べさせていただきました。

最近、様々な事業を通じて、これまでには関わることのなかった人や企業と出会うことが増えていますが、我々ができること、役割を再確認すると共に、新たな作業療法士の活動も作っていかねばならないと感じました。

一般社団法人 富山県作業療法士会

会長: 齋藤 洋平
問い合わせ: 富山医療福祉専門学校内 県士会事務局 Tel/Fax 076-476-0707

■ 作業療法士の普及啓発(目的)

作業療法士の認知度は徐々に高まっているが、一方では、地域的格差に遡っているため、どのようなことをやっているか、また何ができるのか、イメージしにくいのではないかと、富山県作業療法士会では、知名度を高めるための啓発事業の他、様々な地域での働きを知ってもらうための事業も行っている。

■ 啓発事業(概要)

【高校生体験会】
富山県奥津地区、奥西地区で年2回、高校生、教員、保護者を対象とした普及事業を行っている。また、作業療法士自身と会話する時間を設けたり、『作業療法士を感じてもらおう』ことを大切にしている。また、新聞やTVの取材も積極的に依頼し、メディアで取り上げてもらうことで、啓発に繋げている。
【マラソン大会ボランティア】
啓発だけでなく、人材育成、県士会員の連携強化を図るため、県士会執行部と新人を中心に参加している。
【3職種合同での介護予防事業】
2018年度より、3職種合同での研修会や事業が本格化し、トピックスについて一緒に取り組みながら、それぞれの役割の違いや機能を明確化している。

■ 高校生体験会参加者のアンケート結果

各分野の紹介	作業療法の体験	座談会
<p>わかりにくかった 1%</p> <p>わかった 99%</p>	<p>楽しかった 73%</p> <p>楽しなかった 27%</p>	<p>楽しかった 87%</p> <p>楽しなかった 13%</p>

・今更で、理学療法士と作業療法士の違いがわからなかったけど、わかってよかった。
・作業を通し笑顔が増えることを改めて実感し、作業療法士はすごいと思った。
・リハビリには欠かせない、人とのコミュニケーションをとるという部分でもいい経験となった。等



高校生体験会の様子



マラソン大会ボランティアの様子



3職種合同での介護予防事業の様子

今後の展開

作業療法士のイメージは、一般的にも理解されている印象がある。しかし、我々の活動の実績や効果を検証する手段は乏しいが、一つでも多くの病院や施設、行政機関などから作業療法士のニーズが生まれればと思う。

四季防災館見学会を終えて

災害リハビリテーション委員会委員長 高林 一彦（アルカディア氷見）

四季防災館見学会は、9月1日の防災の日に行われ、参加者18名で地震体験、暴風雨体験、煙体験、消火体験などが行われました。また、県内の豪雨災害、地震災害、豪雪災害等についても説明をしていただきました。



印象的でしたのが、地震体験での過去の阪神大震災、東日本大震災、新潟県中越沖地震、熊本地震、能登半島地震などの揺れを実際に体感することができ、その揺れの激しさや長さに驚かされました。

また、個人的には地区の防災訓練で何度か煙体験を行っているのですが、わかっているにもかかわらず通路を見失いそうになり緊張する自分がいるということでした。

地震にしても煙にしても実際に災害に直面した



時の恐怖と不安は計り知れないと思います。だからこそ、日頃の備えと心の準備が重要だということをおぼろげに痛感した次第です。

被災時は、まず自分の身の安全を確保し、家族の身の安全の確認が最も重要です。その上で初めて、職業人として、地域住民として職場や地域への貢献につながっていきます。

阪神大震災では、建物火災で亡くなった人が多かったわけですが、その主な原因は電気回路がショートしているにもかかわらず電気を流し続けたことによる通電火災でした。揺れが治まったらまずブレーカーをおとしたり、ガス栓を切ることは

原則です。復旧した時にあちこちで火災が発生して多くの人が亡くなっています。基本的な知識や備えがあれば防げることも多いのです。

トイレの問題も大きかったと聞きます。トイレ



がなく不衛生になり、食事もあり取らなくなり、免疫力が落ちて感染が余計に拡大したという話です。仮設トイレも設置されるまで数週間～1か月以上かかる所も多いということです。

今後30年以内に震度6弱以上の地震発生確率が関東で80%以上、南海トラフ巨大地震でも80%程度と言われています。その時は、日本海側でも物資が極端に不足するといわれ、決して他人事ではありません。

今回の見学会でアンケートを取りましたが非常に好評でした。皆さん、地域の防災訓練に出来るだけ参加し、情報収集して下さい。来年は7月に四季防災館見学会を行う予定です。各病院・施設から1名は、参加していただきたいと考えています。

地域の防災訓練に参加する機会のない若い会員の皆様は、なおさら参加していただき意識を高めるきっかけとしてもらいたいと思います。



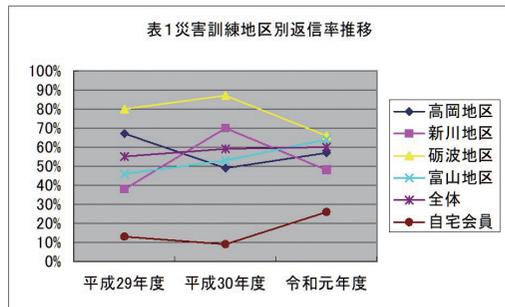
災害情報伝達訓練を終えて（結果報告）

今年度の災害情報伝達訓練は、9月28日に行われ、第3回目となります。今年度は例年と違い日本作業療法士協会で行う災害訓練に参加して、各

士会一斉に行われました。72時間、2週間、1か月の間でどのくらいの安否確認が行われたか報告する形で、災害想定や情報収集のやり方は各士会

にゆだねられ実施しました。富山県は地震発生の際日夕方までに連絡を締切って、全ての情報が集約されるまでに7日から10日間要しました。結果は、表のとおり高岡地区57%、新川地区48%、砺

	連絡施設数	未連絡施設数	返信率
H29年度高岡地区	26	13	67%
H30年度高岡地区	19	20	49%
R元年度高岡地区	24	18	57%
H29年度新川地区	9	15	38%
H30年度新川地区	8	8	70%
R元年度新川地区	13	14	48%
H29年度砺波地区	16	4	80%
H30年度砺波地区	20	3	87%
R元年度砺波地区	16	8	66%
H29年度富山地区	33	38	46%
H30年度富山地区	42	38	53%
R元年度富山地区	48	27	64%
H29年度合計	84	70	55%
H30年度合計	100	69	59%
R元年度合計	101	67	60%
H29年度自宅会員	3	21	13%
H30年度自宅会員	2	20	9%
R元年度自宅会員	6	17	26%



波地区66%、富山地区64%、全体60%、自宅会員26%の情報収集率でした。

注目は、最も病院・施設数の多い富山地区が毎年少しずつですが確実に情報収集率を上げていることかと思えます。全体としても情報収集率が少しずつ向上しており、会員の皆様、特に情報を集約する中間のリーダー役の方々のご尽力があっ

の結果だと感じております。

また、今年度の新たな取り組みとして試行的に士会役員はメーリングリストに登録して、一斉に地震発生メールを送信。それに対して被害状況情報を報告しました。結果は35人の役員に送信し情報収集率は83%で情報の集約も迅速に行われました。

全国的な流れでもあるのですが、この結果を踏まえまして、来年度は会員各個人にメーリングリストに登録していただいて、地震発生連絡をし、被害情報連絡をしていただくという流れに変更していく方向で話が進んでおります。具体的な登録方法や取り扱いについては、4月以降に県士会より案内がありますので、注目して見ていただければと思います。

さて、被災時の連絡に関しましては、皆様にご理解していただいてもraitたいのが、訓練では1回の連絡で終わっておりますが、実際に被災した場合は刻一刻と変わる状況の中で臨機応変に何回でも情報を上げていただきたいということです。所定の書式や連絡方法についてこだわることなく、あらゆる通信手段を用いて理事、災害役員など県士会に情報を上げていただくことで、状況に応じて県士会として何が出来るか迅速に検討していくことにもつながります。

現在、富山県大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（略称、富山JRAT）が正式な立ち上げにむけて具体的に話が進んでおります。県士会では、6月総会時に災害の研修会を開くべく企画しております。

富山県は非常に災害の少ない県ではありますが、毎年のように日本のどこかで大規模災害が発生していることを考えますと富山県も決して例外ではありません。自分達が被災したらの意識をもって関心を持っていただけたらと思います。

広報部からのお知らせ

『県士会ニュース記事の一部HPへの移行及びHP掲載についてのご案内』

県士会ニュースは年3回発行となり、掲載できる記事数に限りがありますので、一部、HPへ移行することとなりました。掲載方法については以下の通りです。

文字数に制限は特にありませんが、A4用紙1枚に、記事と画像を挿入したものが標準となります。

データはワード又はエクセル等で作成したもの（PDFにして送っていただくと助かります）。

認知症作業療法委員会の取り組み

認知症作業療法委員会委員長 中山 真一（魚津緑ヶ丘病院）

日本では高齢者の4人に1人が認知症またはその予備軍とされ、現在の認知症有病率は90歳～94歳で60%、95歳以上で80%に及ぶとされています。

現在の医療技術では残念ながら認知症になっても治ることはありません・・・そのために認知症の初期の段階から援助していこうと、国が認知症初期集中支援チーム構想を打ち出し、日本作業療法士協会も士会員の動きを後押ししようと、特設委員会として認知症作業療法推進委員会が設立されました。それを受けて、富山県作業療法士会においても2016年から「認知症作業療法委員会」が設置されました。（ちなみに初代委員長は齋藤会長でした）

発足理由が認知症初期集中支援チームの後押しだったことにあり、県士会でも当初は初期集中支援チームの研修を行っていました。しかし、そもそも初期集中支援チームに携わる作業療法士はごく少数です。また私のように学生時代は認知症を「痴呆症」として学んできた年代は多く、基礎知識が更新されていない士会員が多いことが協会で問題視されました。そこで認知症に関する基礎知識の更新を目的に「アップデート研修」のシラバスが示され、県士会でも現在までに計5回の研修会を開催しています。これが認知症作業療法委員会の最も大きな業務となっています。

当委員会では、研修会の開催だけでなく、普及指導部さんとコラボさせていただき、ねんり

んピックや健康と長寿の祭典などにも参加しています。認知症の人への支援は2015年に出された新オレンジプランに代表されるように、啓発や予防に関する活動も重要です。ただ、これら予防的事業は診療報酬が伴わないことがほとんどで、先進的な取り組みを行っている士会でも休日を利用したボランティアとしている参加していることが多いようです。また、要請が士会にではなく各病院施設に届くことも多く、士会活動として認知されにくいという問題点も指摘されています。このあたりは委員会でも課題になっていますが、難しいところです・・・。

現在、委員会は9名で運営しています。急性期・回復期・整形・精神と所属分野はバラバラで、地域も南砺市から魚津市まで県全域に渡っています。また特設委員会ということもあり、他の部会や委員会と兼務している人ばかりです。統一感があまりない委員会ですが、「認知症の援助は作業療法士」と言ってもらえる基盤作りを担うことが出来ればと思っています。

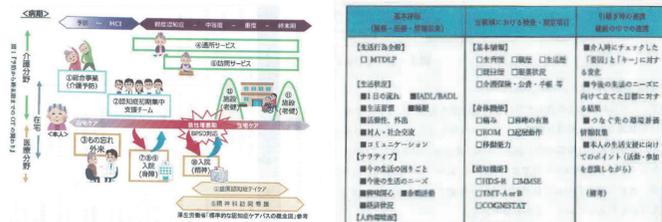
最後に、今年の11月に富山県で東海北陸作業療法学会が開催されますが、市民公開講座で、認知症作業療法推進委員会の委員長である小川敬之先生（京都橘大学）に講演していただきます。『ともに生きる、ともに暮らす。認知症。それがどうした！』というシビれるような講演名で、今から楽しみにしています。県士会員の皆様は役割を持ちながらの学会参加になるかと思いますが、こちらもよろしくお願い致します！

認知症作業療法委員会からのお知らせ

認知症作業療法評価の手引きのご紹介

日本作業療法士協会より「認知症作業療法評価の手引き」が発行されます。認知症の人には多領域での関わりが必要です。しかし他の領域でどのような評価が使われているかは案外分からないものです。そこで他領域で使っている評価を知り、つなぐときのヒントになるような手引きが発行されることになりました。

内容ですが、作業療法士が関わる領域を11に分類しています。各領域の評価方法が事例を交えてまとめられています。富山県作業療法士会や日本作業療法士協会のホームページに掲載していただいていますので、よろしければご覧になってください。2月23日の第19回富山県作業療法学会では会場内で閲覧できるようにさせていただきますので、よろしくお願い致します。



当ステーションの歴史は1999年10月に看護師3名で始まり、翌年4月に訪問リハ部門が開設されました。開設当初はPT1名でしたが、現在ではPT4名、OT3名、ST1名と県内では比較的大規模な事業所となりました。事務所は南砺市民病院1階と、南砺中央病院3階にあるサテライトの2箇所で開催しています。



訪問範囲は、南砺市全域と隣接する旧庄川町（砺波市）で、五箇山などの山間地にも訪問しています。夏は溶けるように暑く、冬は雪を掻き分けて訪問しています（！？）が、春や秋の季節は絶好の外出支援日和です。

対象は、医療保険・介護保険どちらもっており、成人・高齢者のほか、5年前より小児の訪問リハも始めました。始めは南砺市内の支援学校の肢体不自由児を対象としていましたが、



3年前よりGCUから退院された乳児への訪問も行っています。始まるまでは未知の分野でしたが、関連機関との連携やOT県士会発達部会の皆様にご支援いただき、教育研修機会も得な

がら、在宅ならでのリハの関り方を意識して支援しています。

主な疾患は脳血管疾患、認知症、循環器、整形疾患、神経難病、悪性新生物による終末期などです。病院からのソフトランディングを意識し、まずは混乱期をなるべく早く脱することを目標とします。実生活の場で、具体的な目標設定ができれば比較的スムーズですが、「何を目標にしてよいかわからない」、「（家に帰って）思っていたのと違った」等、本人はもちろん家族も混乱されていることもあります。そんな時はまず話をじっくり聞き、悩んでいるその状態を受け入れます。そして、できない事に向きがちな視点を、できることに向くように支援します。強みの評価をして、できることに気付いて頂くことも大切な支援の一つと考えています。

地域の方々の生活を支えるために「時々病院、ほぼ在宅」という地域包括ケアシステムの支援体制が整備されているのも、この南砺市の特徴と言えます。市民病院等との連携や人材交流等で、病院と在宅チームの架け橋となる人材が毎年育っていることも強みの一つです。また、予防の視点として今年度より総合支援事業の訪問型サービスCを開始しました。この内容は2月の県学会で報告がありますので、楽しみにお待ちしております。



会員リレーコラム



富山協立病院
石井 公平

会員の皆様、こんにちは。富山協立病院の石井といいます。杉野脳神経外科の深山さんからコラムの受け継ぎ、今回書かせて頂くことになりました。現在は、作業療法士として4年目になります。コラムを書いている時点で12月になりますが、そろそろ自分の趣味であるスキーが出来るようになります。1時間以内にスキー場に着ける為、スキー好きにとって富山県は恵まれた県としみじみ思います。これまで関わった患者様の中には、意外とスキー経験者がおられ、会話が弾むことがありました。スキーに限らず、普段会話が少ない方でも趣味の話になると会話が進む方も多く、1人1人の個性や強みを活かしたりハビリを展開していきたいと考えております。現在担当している療養病棟では、週に1回レクリエーションを開催し、参加者の方々と季節に合った

飾り作りを行なっております。参加者1人1人の能力に合った工程を分けて提供し、役割分担しながら作成しています。1人1人の強みを活かしながらの共同作業が展開できていると思います。レクリエーション後は、「楽しかった」と言われる方や黙々と作業に打ち込む方など患者様の反応は様々です。自分自身、まだまだ未熟の身であるため、今後の臨床などの色々経験を積みながら、精進していければと思います。今後ともよろしくお願い致します。最後に、次のリレーバトン「駅南あずさ病院」の藤永賢人さんに渡したいと思います。



済生会高岡病院
近藤 咲希

県士会のみなさんこんにちは。魚津緑ヶ丘病院の渡辺さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させて頂きました。私は富山県済生会高岡病院に勤務している近藤といいます。富山医療福祉専門学校を卒業し当院に就職しました。当院では急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期病棟が設立されており、私は主に急性期病棟に入院されている患者さんのリハビリテーションを担当しています。作業療法士として働き始めて2年が経ちましたが、まだまだ日々の業務をこなすことで精一杯の毎日です。また後輩もでき、自分が先輩という立場になったことを恐ろしく感じています。

私は今年、金沢医科大学病院で行われた「第11回がんのリハビリテーション研修会ワークショップ」に参加しました。数年前に私の祖父ががんを患い、闘病生活を送っていたこともあり、

以前からがんのリハビリには興味を持っていました。研修会では医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームで参加し、座学だけではなく他院との症例検討やグループワークが多く行われました。様々な目線からたくさんの意見を聞くことができ、他職種との連携の大切さや作業療法士の役割を知ることができました。難しい分野ではありますが、今後も深く勉強して知識を増やし、質の良いリハビリテーションを提供できるように勉強したいと思います。

仕事は大変ですが、周りには優しく面白い先輩方や、同期、家族の支えもあり、何だかんだ楽しい日々を過ごしています。来年は3年目となりますが、初心を忘れず謙虚に頑張っていきたいです。プライベートでは最近一人暮らしを始めたので、もう少し料理が上手になれるように研究したいと思っています。そして家族や友人との時間を大切に、笑って楽しく過ごしていきたいです。

最後に、次のバトンは富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの遠藤若菜さんへ渡したいと思います。

令和元年度 第5回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和元年8月19日(月) 19時より

出席者：齋藤、松岡、島津、丸本、吉波、藤井、
吉村、森、渡邊、大平、橋爪、松本、
小倉、高林

欠席：桐山、能登、松本、作田

《報告事項》

1. 各種事業より
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
・精神部会より出席
2. 協会事業、三士会協議会より
 - 2-1. ロボット事業について
・7月5日 第1回協議会開催。齋藤委員長、渡邊理事、中林氏(富山大学)、梶谷氏(国立研究開発法人産業総合研究所)出席。一般枠で検討中。他からの助成金は、併用不可。
・8月20日 第2協議会開催予定(富山大学)
・8月24日 第2回推進委員会 齋藤、渡邊出席予定
・構成員：新たに2名追加(富山大学芸文学部教授、NEC関連企業)。
 - 2-2. 富山県JRAT
・高林委員長より報告。藤井理事、高林委員長を委員として推薦。
 - 2-3. 三士会合同協議会研修会
・7月14日 介護予防教室に関する研修会。赤尾委員長講師。
・活動費は8月末日まで。島津事務局長より納付。
- 2-6. 地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会(大平理事)
・齋藤、大平出席。報告書添付
3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. 臨床実習指導者研修会(能登理事より)
・8月7日富山県理学療法士会、富山県作業療法士会、養成校にて会議(齋藤、能登、梶出席)
・8月17日、18日 石川県リハビリテーションセンター(推薦人5名)
 - 3-2. 災害対策委員会
・9月25日11時災害訓練。役員によるメーリング、従来型のFAXを並行して実施。
 - 3-3. 健康と長寿の祭典
・人員やその他運営は普及指導部中心に行い、認知症委員会も運営協力。

《検討事項》

1. 各種事業について
 - 1-1. 2020年度東海北陸作業療法学会
・7月28日学会発表に向けての研修会を砺波学会との合同開催。
・全体会を例年よりも早く開催し、学会の周知を行う。
・コンベンション開催支援セミナー(8月23日) 齋藤、水島出席
2. 協会事業について
 - 2-1. 47委員会(7/27~28)
・齋藤出席(オブザーバーなし)
・ダイヤモンドを探せにて、富山県士会の啓発活動を紹介。
 - 2-2. 東海北陸リーダー研修会
・2019年11月30日(土)・12月1日(日) 会場：金沢市

- 内 候補者5名
3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. ホームページ管理料
・広報部予算より支出

令和元年度 第6回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和元年9月17日(火) 19時より

出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、丸本、吉波、
藤井、吉村、森、渡邊、能登、松本、
小倉、大平

欠席：橋爪、作田

《報告事項》

1. 各種事業
 - 1-1. ロボット事業
・8月20日富山県協議会開催。一般枠で、昨年度の内容を醸成。
・南砺市にてニーズ調査を行い、事前に南砺市民病院の倫理委員会にて審議。
・8月24日 第2回推進会議 齋藤会長、渡邊理事2名出席。
 - 1-2. 千葉県を中心とした被災について
・支援要請があれば対応。
 - 1-3. 災害シミュレーション
・9月25日、富山県は土会単独でも実施予定。
 - 1-4. 富山県リハビリテーション専門職協議会
・10月2日 第2回協議会予定。
 - 1-5. 代議員選挙について
・協会より女性立候補者擁護の促進について協会から通知あり。→ 齋藤会長、丸本理事、吉波理事の3名
・トライアル投票において投票者によってはダブルあり。協会へ報告予定。
 - 1-6. 47都道府県委員会について
・今年度2月1日~2日に開催予定。松岡副会長出席予定。
・2020東海北陸学会でのモデル事業を話題提供予定。
・今後、47委員会未参加者に参加を打診
 - 1-7. 会員情報促進について
・協会より会員情報更新の周知案内の依頼あり。島津事務局長より各地区理事へ
・該当者名簿をメールし更新を打診。
・12月頃にアンケート実施予定
 - 1-8. 訪問リハビリテーション協議会について
 - 1-9. 「富山地域リハビリテーション推進指針」
・県より資料
2. 各部会、委員会などより
 - 2-1. 臨床実習指導者研修会
・2月1日~2日 富山リハビリテーション医療福祉大学にて開催予定
・参加人数に応じた講師/ファシリテーターの人数の再検討。
・その他、予算書に修了証書の用紙、印刷代の計上が必要。開催12週間までに準備。
 - 2-2. 災害対策委員会
・9月1日 四季防災館にて見学会開催
・体験談の研修会を企画(講師候補佐藤氏)
 - 2-3. 普及指導部
・健康と長寿の祭典(10/9) 式典齋藤出席。2日間普及指導部、認知症委員会より動員。

- ・10月22日 グランドプラザ。普及指導部、三役、ロボット事業関係者参加予定。付随して、富山大学 看護学会学術集会での講演、周知依頼。
- ・交通費、駐車代などについて部会からの支出。
- ・ほたるいかマラソン大会ボランティア募集中。走者への弁当支給も次年度検討。
- 2-4. 福利厚生部
 - ・9月28日 県士会懇親会に23名程度参加予定
- 2-5. 県士会からの講師派遣
 - ・百塚地域包括支援センターより認知症と家族介護についての講演と座談会の講師依頼
 - ・10月24日(木)13:30-15:00、谷野認知症医療センター
 - ・地域アドバイザー委員会、認知症作業療法委員会にて講師、内容の検討。
- 2-6. 2020年 東海北陸学会
 - ・静岡学会に参加し、申し送り、次年度学会の周知。準備委員会からの予算にて対応。
 - ・20周年記念の企画として県士会長で座談会を予定。
 - ・組織図は別紙資料あり。「監事・相談役」は1人必要検討。佐藤先生に確認。
 - ・講座に協会枠3枠。公開講座は「テーマ認知症、講師小川敬之先生(京都橘大学)」

＜＜検討事項＞＞

1. 協会等事業について
 - 1-1. 東海北陸リーダー研修会
 - ・2019年11月30日(土)・12月1日(日)会場：金沢市内
 - ・桐山氏(リーダー)、塚田氏、松本氏、飯田氏、熊南氏 了承。
 - ・今後メンバーで会議予定。会議のための交通費、会議費の支出は行わない。
 - ・研修後の報告をホームページに掲載し、県士会活動へ活用。
2. 各部会、委員会などより
 - 2-1. 富山県介護機器普及事業運営分科会委員について
 - ・9月30日まで澤木氏受託。以降、新たな委員の推薦必要。佐藤氏に打診。
3. その他
 - 3-1. 旅費交通費規程について
 - ・次回の全体会で説明し、次年度予算に組み込む。
 - ・「出張」の定義が不明確であるため、内規など作成する。
 - 3-2. 運転委員会から報告(吉村理事より)
 - ・8月29日砺波教習所小林校長から連絡あり、今年度中に県内にて連携網作成。
 - ・9月19日齋藤会長、吉村理事、丁子委員長と県リハ影近先生、吉野先生で会談。
 - ・10月末に小林校長、吉野先生、吉村理事にて小林校長からの提案について検討予定。
 - ・12月21日 県警宮西氏の講演、研修会を予定。

令和元年度 第7回理事会

場所：谷野呉山病院
 日時：令和元年10月21日(月) 19時より
 出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、丸本、橋爪、吉波、藤井、森、渡邊、松本、
 欠席：能登、大平、吉村、作田、小倉

＜＜報告事項＞＞

1. 各種事業より
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議

- 1-2. 富山県介護機器普及事業運営分科会委員について
 - ・澤木氏より桐山副会長に変更(R1年10月～)
- 1-3. ほたるいかマラソン
 - ・台風のため中止
2. 協会事業、三士会協議会より
 - 2-1. ロボット事業について
 - ・10月7日 ヒアリング調査(南砺市民病院医療倫理委員会にて承認)
 - ・10月11日 第三回協議会開催(富山大学 18:00~24:00)
 - ・10月26日 協議会(東京 齋藤出席予定)
 - 2-2. 台風19号被災状況および支援について
 - ・特に支援について協力要請などなし。依頼などあれば対応。
 - 2-3. 9月25日災害訓練実施の結果
 - ・病院施設単位の連絡網での連絡率は58.8%、自宅会員は26%。
 - ・役員のみで行なったメーリングリストを使った連絡は83%。
 - ・今後、迅速かつ高い連絡率を目指して、メーリングリスト等をどのように会員に活用していくか検討
 - 2-4. 2019年度災害支援研修会
 - ・12月7日 日本作業療法士協会 吉波理事出席予定。
 - 2-5. 富山県リハビリテーション専門職協議会
 - ・10月2日 第2回専門職協議会会議(齋藤、松岡、橋爪、大平 出席)
 - ・3士会合同研修会 6月23日地域ケア会議、7月14日 介護予防教室について
 - ・2020年3月15日(日)予定
3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. 北陸三県合同MTDLP事例検討会
 - ・12月21日(土) 金沢リハビリテーションアカデミー
 - ・MTDLPに対する関心が薄れてきており、広報、啓発が必要。
 - 3-2. 普及指導部
 - ・健康と長寿の祭典 式典に齋藤出席。2日間普及指導部、認知症委員会より動員。過去最高の240名の集客。
 - ・10月22日 まちなか歩き2019 グランドプラザ。部会より交通費、駐車料金支給。
 - 3-3. 東海北陸学会
 - ・静岡学会 座長に水島氏(厚生連滑川)、大平理事に依頼、了承、届け出済
 - 3-4. 県学会
 - ・演題登録締め切りを10月末日まで延長

＜＜検討事項＞＞

1. 各種他団体事業について
 - 1-1. 南砺市医師会事例検討会
 - ・これまで南砺市訪看ステーションに依頼していたが、規定を作り、次年度より南砺市内の病院、施設で持ち回りとなる予定。
2. 協会等事業について
 - 2-1. 協会＝県士会に向けての意見
 - ・県士会としての意見がまとまらず、各意見をそのまま協会に提出する。
3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. 災害対策に関する研修会などについて
 - ・今年度中の開催について災害委員会で検討する。
 - 3-2. 臨床実習指導者研修会について
 - ・予算案提出。→承認。

M 富山県義肢製作所
富山県補聴器センター

“歩く”
歩きやすさを追求した靴・インソール
快適に!
“聴く”
聞こえの世界が広がる 補聴器

快適に“歩く”“聴く”
をご提案する
富山県義肢製作所です。

義手・義足・コルセットの
製造を行っています。
歩きやすい靴・インソール
360°対応の補聴器の
販売にも力を入れ
皆様の QOL 向上を
サポート致します!

〒930-0042 富山市泉町1-2-16
TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587
E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL https://tpo-morita.com
営業時間 平日 8:30 ~ 17:00 土曜 8:30 ~ 12:00



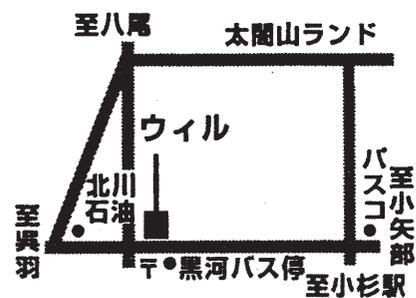
介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子
→ 480円より
ベッド
→ 700円より

リースナブル



株式会社 **ウイル**
TEL (0766) 56-7099
FAX 56-3395



4. その他
- 4-1. 旅費規程について
- ・一般社団法人富山県作業療法士会 旅費交通費規程 2020年4月1日から施行
- 4-2. その他
- ・全体会の交通費は各部会、委員会ごとの予算で対応。
 - ・研修会のチラシに、講師の経歴を入れるなど、興味や参加意欲が沸くような工夫必要
 - ・2020年度は東海北陸学会のため學術部の研修会は行わないが、委員会等の必要な事業は実施。
 - ・2020年度の懇親会は、東海北陸学会と兼ねる。

令和元年度 第8回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和元年 11月 11日(月) 19時より

出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、丸本、橋爪、吉波、藤井、渡邊、大平、吉村

欠席：松本、森、能登、作田、小倉

《報告事項》

1. 各種事業
 - 1-1. 第35回東海北陸理学療法学会
 - ・11月9日 齋藤出席
2. 協会事業、三士会協議会等
 - 2-1. ロボット事業について
 - ・10月26日 協議会（東京・齋藤出席し報告）
 - ・11月14日 第4回協議会（富山大学 高岡キャンパス）
 - ・12月7日 富山大学看護学会学術大会（齋藤会長・パネリスト 渡邊理事・参加）
3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. 運転委員会
 - ・10月24日 砺波自動車学校校長、吉野医師（県リハ）、齋藤、吉村、丁子にて面談
 - ・12月21日 研修会開催（案内はHP掲載）
 - 3-2. 普及指導部
 - ・10月22日 富山大学歩行圏コミュニティ研究会（グラウンドプラザ）
 - ・報告書添付
 - 3-3. 第20回 東海北陸学会
 - ・11月16日—17日 静岡学会に齋藤（16日のみ）、水島他 出席
 - 3-4. 県学会
 - ・演題登録締め切りを10月末日まで延長し、20演題程度集まった。
 - ・グラウンドプラザで購買の成果があったため、県学会では一般販売行わない。

《決定事項》

1. 協会等事業について
 - 1-1. 台風19号被災状況および支援について
 - ・日本作業療法協会より11月8日 支援金依頼あり。
 - ・他士会の対応について情報収集し3役にて対応について協議。甚大な被害への援助としての金額を検討した。
 - ・3万円を協会口座に県士会名で振り込み、会員にその旨を文書で周知していく。
2. 各部会、委員会などより
 - 2-1. 災害委員会
 - ・今年度の訓練での返信率83%
 - ・個人単位のグーグルフォーム入力等を活用

- ・メーリングリスト化について登録情報の選定、セキュリティーについて、島津氏、HP作成担当の塚田氏で検討
 - ・メーリングリスト稼働の際は管理者を塚田氏とする。
 - ・メーリングリスト登録を促す目的を訓練以外の研修会案内にも活用
 - ・災害リハ研修会を総会時に開催することとし、今後タイムスケジュールを検討。
 - ・災害リハ研修会内容は、JIMTEFUベーシックコース伝達（富山市民病院古澤氏）、DPAT活動報告（富山県立中央病院高岡氏）
 - ・来年度もJIMTEFUベーシックコース研修会に県士会から参加する方向を検討。
- 2-2. R2年度事業計画案について
- ・各部署から届いた案について特に異議はなし
 - ・學術部は東海北陸学会の枠に置き換える。
 - ・學術部のMTDLP事例検討会は今年度同様に実施する。

賛助会員名簿

（順不同）

会員名(代表者)	住所
富山医療福祉専門学校 (学校長 長谷川 成樹)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (学長 前島 伸一郎)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いづみ会 温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西 仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (校長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 ウィル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279

編集後記

2020年が始まりました。今年は2度目となる東京オリンピックの年です。そして干支も子年ということで新しいサイクルが始まる年となります。そんな子年に込められた意味をご存じですか？ねずみは沢山の子供を産む動物ということから「子孫繁栄」とされており、さらに株値市場では「子年は繁栄」と知られています。まさに東京オリンピック・パラリンピックで沢山の方が訪れるため経済効果が期待されますね。(Y.N)